

2025 年 7 月 9 日

【XCR スプリントカップ北海道 第 3 戦 / 北海道ニセコ町 周辺】
今季初のグラベルラウンドとなる全日本選手権併催の ARK ラリー・カムイ、
XC-2 クラスで番場彬選手/梅本まどか選手組が圧勝を飾った！

2022 年に発足した XCR スプリントカップ北海道は、クロスカントリータイプの SUV 車両によって競われる北海道で開催されているラリーシリーズ。4 年目を迎えた今年は全 6 戦のカレンダーが組まれており、シーズンは去る 2 月に開幕。ここまで雪氷路を舞台とするウインターラリーが 2 戦開催され、3 年連続でシリーズチャンピオンを獲得している番場彬選手(トヨタ・ハイラックス)が連勝を飾って、4 連覇に向け好調な戦いぶりを続けている。



今季初のグラベル(未舗装路)ラリーとなる第 3 戦の「ARK ラリー・カムイ」は、全日本ラリー選手権との併催でニセコ町を拠点に開催。蘭越町と、今年は新たに京極町にも SS(スペシャルステージ)を設け、11 本のステージで合計距離は 102.37km というスケールの大きな一戦だ。番場選手のコ・ドライバーをつとめるのは開幕戦以来となる梅本まどか選手、このコンビは昨年の本大会でも優勝を飾っている。XC-2 クラスは総勢 7 台が出場、番場選手組が駆る「GEOLANDAR X-AT」を装着するトヨタ・ハイラックスを筆頭に、車種やタイヤのバラエティも増して盛り上がりを見せている。

競技初日の 7 月 5 日(土)、ニセコ地域は最高気温が 30℃ほどの暑さとなった。この日は 7 本の SS が設定されるが、オープニングの SS1「STREAM 1 (11.04km)」で番場選手組は 9 分 17 秒 5 のステージベストを刻み、2 番手のライバルに 1km あたり 1 秒以上速い 15.3 秒差をつけて早々に主導権を握った。

この勢いは留まることなく、SS2 と SS3 も制して 3 連続ステージベストをマーク。0.33km のギャラリーショートステージこそ僅かにベストタイムをライバルに譲ったが、45 分間のサービスをはさんで迎えた後半もステージベストを連発、1 分以上の大差をつけてトップで戦いを折り返した。





勝負を決する6日(日)、この日は大会最長となる16.01kmの京極町のステージが含まれる。このステージは全体の3割以上がターマック(舗装路)区間となるが、前日に続いて気温が30℃近くまで上昇したことから高温下におけるグラベルのみならずターマックでのタイヤのパフォーマンスも試される展開に。

そんな中、「GEOLANDAR X-AT」が番場選手組の走りを足元でしっかりと支え、この日のオープニングとなるSS8「SUNFLOWER 1 (16.01km)」で2番手に31.7秒差をつける圧巻のステージベストを叩き出し、トータルの差をさらに拡大。大量のマージンを背景にフィニッシュまで安定した走りでマシンを運び、終わってみれば2日間で11本のSS中、9本のSSでステージベストを奪って、2位に6分近い大差をつけて開幕3連勝を飾ることに成功した。



また、XC-3 クラスでは相原泰祐選手/上原あずみ選手組(ダイハツ・ロッキー)が、タフなステージをしっかりと走りきって3位表彰台を獲得、セレモニアルフィニッシュで揃って笑顔を見せた。

次戦は9月5日(金)～7日(日)に帯広市を拠点に開催される「RALLY HOKKAIDO」、再び全日本ラリー選手権との併催でハイスピードかつ広大なフィールドへ「GEOLANDAR」が挑む。

■ 番場 彬 選手 (CUSCO YH ジオランダー HILUX)

【今回の成績：XC-2 クラス 優勝】

初日の SS4 では自分のミスでリム落ちさせてしまいましたが、これは反省点となりました。また、今回は気温が高くなったこととステージにラフな箇所が多かったこともあり、ライバル勢でも同様でしたがブレーキの負担が大きい状況になりました。二日目では効きが強めのブレーキパッドを使い、最初はアジャストが難しい部分もありましたが次の「RALLY HOKKAIDO」に向けて良いデータ採りが出来ました。今回はコーナーの脱出を早めるために、左足ブレーキを多用しました。ライバル勢もどんどん早くなっているので、自分としても持てる技を小出しにして対抗していかなければ、いつまでもうかうかしていられないですからね。

ターマック区間ではハイラックスは車両重量があるので、フロントタイヤに頼る曲げ方ではすぐにロックしてアンダーステアを誘発するので、加速ベースのドライビングを心がけてタイヤを巧く使いました。グラベルも含めて路面温度の高さに対して「GEOLANDAR X-AT」のパフォーマンスは全く問題無く、内圧の管理も狙い通りでロングからショートまですべてのステージでタイヤから来る不安感は一切ありませんでした。XC-2 も参戦台数が増えていますが、「GEOLANDAR」の良さを活かして次も良い走りを見せたいと思います。

■ 梅本まどか選手 (CUSCO YH ジオランダー HILUX)

【今回の成績：XC-2 クラス 優勝】

今回、二日目最初のステージでスタート 1 分前に車内に蜂が入ってきたのが“大事件”でした。追い出せたので何事もなかったのですが、ちょっとビックリしましたね(笑)。

番場選手とはペースノートが英語なのですが、滑らかに読んで聞きやすいようにという点をコ・ドライバーとして意識しています。番場さんとは開幕戦以来の参戦ですが、ちょっと間が空きましたし開幕はウィンターラリーでしたから、今回は少し違った部分もありました。読むトーンをあげるなどして滑らかに読みましたが、初日は走りに対して読むスピードを少しあわせきれなかった部分がありました。そこは二日目でしっかりアジャストして、番場選手にしっかりあわせていけたと思います。

今回は全体的に落ち着いて対応出来て、ロングステージでも走りきって「もう終わりなんだ」と思うくらいでした。いくつかトラブルにも冷静に対応出来て、コ・ドライバーとしてきちんと仕事をこなせました。チームのみなさんにもサポートいただいて、学びも多く嬉しい一戦になりました。

「RALLY HOKKAIDO」でも今回得たことを活かして、番場さんの走りを支えていこうと思います。

・GEOLANDAR Facebook : <https://www.facebook.com/GEOLANDAR.JP/>

・GEOLANDAR X : https://x.com/GEOLANDAR_JP

・GEOLANDAR Instagram : <https://www.instagram.com/geolandar.jp/?hl=ja>